

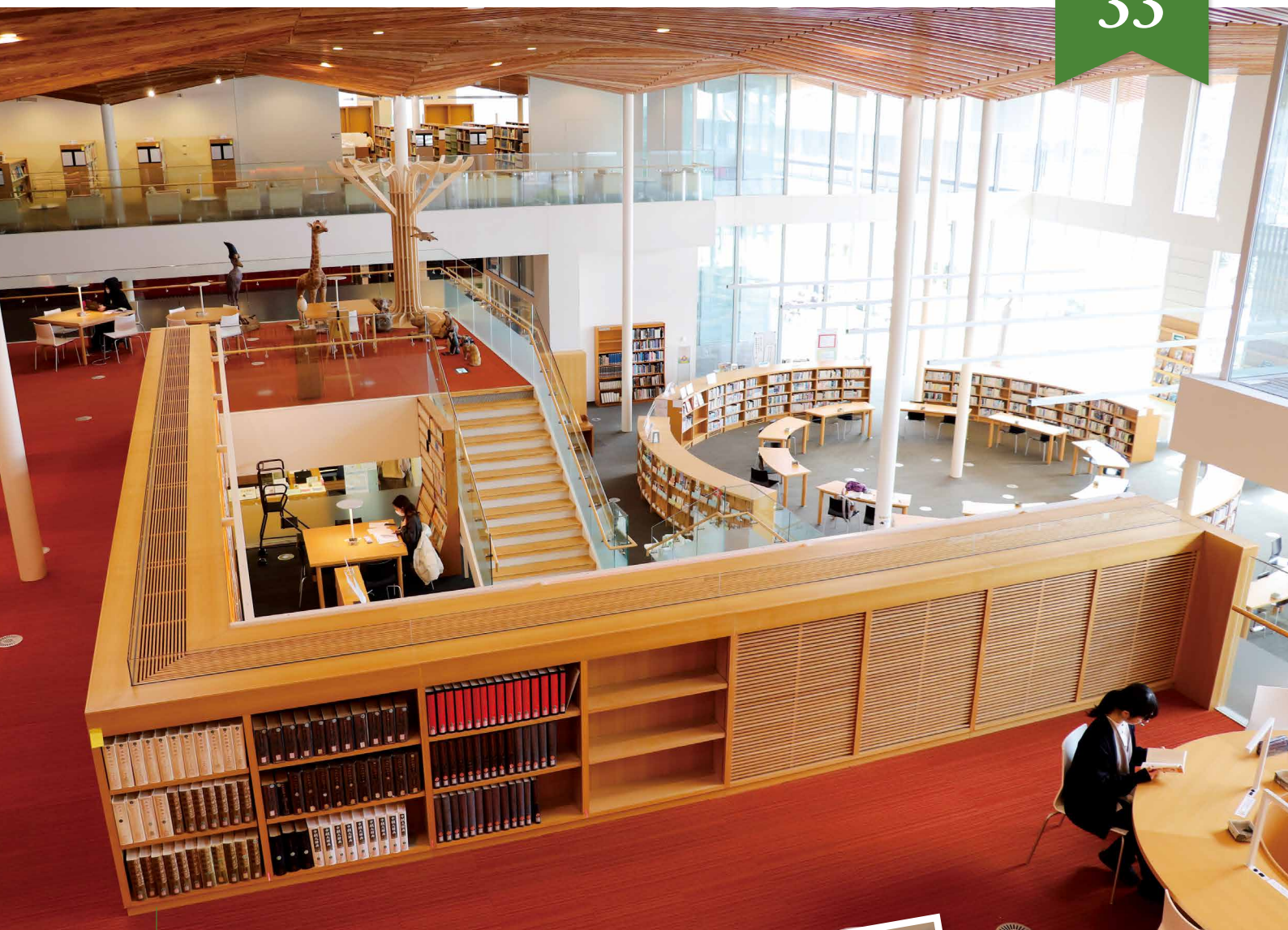
福岡女子大学附属図書館ニュース

図書館、美術館、ラーニング・コモンズの情報をお届けします

Fukuoka Women's University Library News

2025.3

33



Contents

- 1 表紙
- 2 迷宮への潜入(宮川 美佐子)
- 3 企画展示
- 4 ラーニング・コモンズNews
- 5 TOPICS
教員著作コーナーより
- 6 学生委員の活動紹介
図書館部門の活動紹介
- 7 美術館部門の活動紹介
- 8 共に10周年を祝い、未来へと想いをつなぐLanguage Cafe(金光 真美)
附属図書館の1年



迷宮への潜入

附属図書館長(国際教養学科 教授) 宮川 美佐子

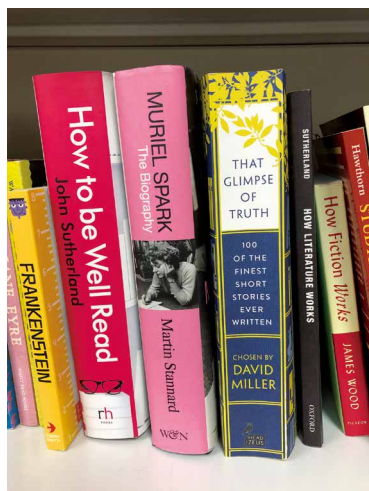
21世紀も四分の一が過ぎようとしています。自分が子供の頃は遠い未来と思っていたのに、本学で学んでいる学生のほとんどが今や21世紀生まれだというのは不思議な心持ちがします。図書館の風景も、昔と変わらず紙のページを繰る人もいれば、現代らしくパソコンのキーボードをたたいている人もいるといった具合です。今年の入館者数はコロナ禍前と比べかなり回復し、本格的に活気が戻ってきています。美術館では学生が企画したアーティストの展覧会が華やかに場を彩りました。ランゲージ・カフェは十周年を迎えて記念イベントを開催し、懐かしい卒業生も駆けつけて楽しい秋の一日を過ごすことができました。

図書館は昔も今も人と本をつないできましたが、最近気になることがあります。学生と話していて「本が好き」と言う人に具体的な書名を尋ねてみると、「でも時間がなくて」「難しくて」この数年はあまり読んでいない、と答えられることが時々あるのです。逆に、次々に書名を挙げてくれる頼もしい人もいますし、何気ない発言を私が本気に受け取り過ぎてしまっているのかもしれない。それでも、「好き」なのに「読んでいない」というのはとてももったいない気がします。

こうした背景には、誰も彼もが忙しく、速く短く端的なコミュニケーションが重視される現代社会の影響もあるように感じられます。もちろん、そうした技術はそれはそれで必要な局面もある一方、世界は本当は漠として不定形なものだということを見落し、物事を白か黒かに急いで切り分けて判断することを当然視すると、その複雑性や重層性を見落としてしまうこともあります。「一時間で分かる」「一冊で分かる」を謳う書籍も増えたとはいえ、世界はそんなにお手軽なものではありません。すぐに分かる、は参考程度にして、難しそうなの、にもかかわらず連綿と時を超えて引き継がれ大切にされてきた書物に、学生のうちに背伸びをしてでも挑戦してもらいたいものです。それで挫折しても構いません。私自身、名著と呼ばれるものを読んでぜんぜん意味が分からなかったのに、年を取って読み返すとはじめて腑に落ちた、ということが何度もあります。ページの中に未知の世界が待っているということを忘れなければ、いつかまた訪れることもできるでしょう。

図書館が登場する有名な小説にウンベルト・エーコの『薔薇の名前』(1980年)があります。14世紀のイタリアを舞台に、修道院で起きた連続殺人事件の謎を推理する物語で、世界的なベストセラーにもなりました(附属図書館にも翻訳が所蔵されています)。一見ミステリーに思えるかもしれませんが、エーコはもともと記号論の第一人者であり(研究者としての著作も本学に何冊も所蔵されています)、単純な謎解きではなく、世界とは何かを考えさせる哲学的な側面も、現代にも通じる権力の腐敗と格差によって分断される人々を描く社会的な側面も備え、一人の若者の青春小説でもあります。この多面的な小説の中心にあるのは、まるで迷宮のような薄暗い修道院の図書館です。あまり書く「ネタばれ」になってしまうのですが、この図書館には当時の体制の価値観とは相容れないある知識が数百年の時を超えて隠されており、そのことが物語の鍵となっています。

このように、図書館は単に知の貯蔵庫というだけでなく、私たちが閉じ込められている時代を超える出口(入口?)となり得る場所でもあります。明るい本学の図書館に修道院の影はないものの、どこか迷宮的な感じは留めています。人材という名の商品として自分を高く売らなくてはいけない、という今どきの考えに疲れたら、人間として豊かに生きるためのきっかけを見つけれ図書館に来て本を繙いてみてはどうでしょう。あと少しの私の任期で、職員の皆さんの助けを借り、学生さんが本を選ぶヒントになるようなことをささやかながら何か残して、次の図書館長にバトンを引き継ぎたいと思います。



ピンクの背表紙は昨年逝去された本学元学長・岡照雄先生にいただいたミュリエル・スパークの評伝

企画展示

図書館企画展示 「図書館へ行こう!～これからの大学生活をサポートする本を紹介します～」

昨年 5 月より図書館 1 階 BBC コーナーそばにて、企画展示「図書館へ行こう!～これからの大学生活をサポートする本を紹介します～」を開催しています。レポートや論文の書き方、プレゼンスキルに関する本の他、留学生との交流や異文化コミュニケーションに役立つ本等、図書館の蔵書の中から、学生の皆さんへお薦めしたい本を厳選して展示しています。

展示ポスターやポップ等、図書館で働く学生スタッフの皆さんにご協力いただき、手作り感あふれる展示空間が出来上がりました。学生の皆さん、大学生活をより豊かなものにするために、図

書館の蔵書を活用してみませんか? 図書館にお越しの際は、ぜひ展示コーナーにお立ち寄りください。



図書館 学生委員企画 「映画原作×厳選フレーズ ～新たな冒険へとあなたを導く物語～」

昨年 12 月より図書館 1 階にて、図書館部門学生委員による企画展示「映画原作 × 厳選フレーズ ～新たな冒険へとあなたを導く物語～」(※)を開催しています。2 名の学生委員がアイデアを出し合い、読書に対して苦手意識をもっている学生へ本を読むきっかけを与えたいとの思いで発案された本企画展示では、海外の映画作品やディズニー、ジブリ等のア



ニメーション作品の原作を展示しています。また書籍の展示と併せ、書籍の中から抜粋した台詞やフレーズを、個性的なデザインで掲示しています。

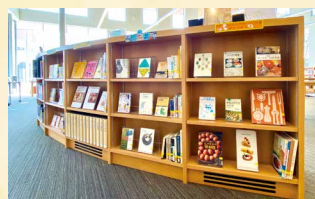
ポスターや展示レイアウト等、学生委員の創意工夫が散りばめられた展示コーナーをぜひ一度ご覧ください。

(※)企画展示の様子は、p.6「図書館部門の活動紹介」でも紹介しています。



図書館企画展示 「卵の不思議・鳥の秘密」

本学美術館にて 2025 年 1 月 15 日から 3 月 17 日の期間に開催された「アトリエ プチ*ミュゼ エッグデコパージュ展『祝福』～祝福を、今ここで。～」にちなみ、「鳥」や「卵」にまつわる書籍を幅広く集め、紹介しています。鳥や卵をモチーフにしたキャラクターが登場する物語、また卵料理のレシピ本や鳥や卵に関



する学術書等、本学図書館には実に多くの関連書籍が所蔵されています。

鳥の卵を加工してきらびやかな装飾を施す「エッグデコパージュ」の美しさに触れると、普段見慣れているはずの「卵」の新たな魅力に気づかれます。図書館で働く学生スタッフの皆さんにご協力いただき、可愛い展示コーナーが出来上がりました。皆様ぜひ一度お越しください。



美術館 第8回春の企画展 「東智恵」展

大分を拠点に活動する画家の東智恵(ひがし・ともえ)氏による企画展が、2024 年 4 月 19 日から 6 月 29 日の期間、本学美術館にて開催されました。豊かな色彩感覚で、女性や植物をモチーフとする神秘的な世界を描き出す 30 点程の作品が展示され、多くの方々にご来館いただきました。



東氏へインタビューを行

い、その記事を美術館ホームページにて公開する等、本企画展では美術館部門学生委員も企画運営に携わりました(※)。また 2024 年 5 月 18 日から 5 月 26 日の期間に開催された「福岡ミュージアムウィーク 2024」では、ご応募いただいた皆様へ作品のポストカードをお送りし、ご好評いただきました。(※)学生委員によるインタビューの様子は、p.7「美術館部門の活動紹介」でも紹介しています。



美術館 学生委員企画 「アトリエ プチ*ミュゼ エッグデコパージュ展『祝福』～祝福を、今ここで。～」

2025 年 1 月 15 日から 3 月 17 日の期間、本学美術館にて学生委員企画「アトリエ プチ*ミュゼ エッグデコパージュ展『祝福』～祝福を、今ここで。～」が開催されました。卵を高度な技術で加工し、きらびやかな装飾を施した作品(エッグデコパージュ)の数々が一堂に展示された様子は壮観で、来館した多くの方々が足を止め、その美しさに魅入っている様子が印象的でした。



企画展のポスターを作成したり、関連ワークショップ「ウズラの卵でキーホルダーを作ろう!」の運営に携わる等、本企画展では、美術館部門学生委員が企画から運営に至るまで積極的に関わりました(※)。ワークショップにも多くの方々にご参加いただき、本企画展は盛況のうちに幕を閉じました。(※)学生委員による活動の様子は、p.7「美術館部門の活動紹介」でも紹介しています。





図書館1階にある本学の新たな学びの場「ラーニング・コモンズ」をご存知ですか。

複数の学生や教員がつどい、主体的に学習活動を行うことのできる「ラーニング・コモンズ」は、様々なテーマについてのディスカッション、プレゼンテーションの練習、また語学の練習など、幅広い学習スタイルを可能にする空間です。机や椅子のレイアウトを変更し、ミニ講演会や公開講座等、小規模なイベントの開催も可能です。

「ラーニング・コモンズNews」第9回目の今回は、いくつかの活用事例を紹介します。このような事例を参考にいただき、皆さんそれぞれの学習スタイルを創造してみてください。

十四代今泉今右衛門氏によるご講話 および感謝状贈呈式が開催されました

本学創立100周年を記念する絵皿を制作して下さった十四代今泉今右衛門氏(※)をお迎えし、ご講話をいただくとともに、記念皿のお披露目や感謝状贈呈等を行いました。江戸時代から続く伝統的技法について、また創作にかける想いや記念皿のデザイン等について情熱をもって語る氏の姿に、参加者の多くが感銘を受けた様子でした。



本学のシンボルである撫子の花だけでなく、本学学生や教職員の希望をもとに選ばれた様々な種類の花の絵柄が散りばめられた記念皿がお披露目されると、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。有田焼の陶芸家として人間国宝に認定されている今泉今右衛門氏に直接お会いすることのできる貴重な機会であったため、参加者の中には、閉会後に氏との写真撮影を求める熱心なファンも見受けられる等、大変な盛会となりました。



(※)江戸時代から続く陶芸家の名跡である「今泉今右衛門家」の14代目。平成26年に長年の功績が評価され、重要無形文化財「色絵磁器保持者」(人間国宝)に認定されました。



はため息が漏れ聞こえましたが、氏の気さくでユーモアあふれる語り口もあいまって、文法力や多読の大切さ、AIの活用方法等、英語の効果的な学習方法について楽しく学ぶことのできる笑いの絶えない楽しい時間となりました。

本学図書館では『The Japan Times Alpha』を定期購読していますので、英語の多読学習にぜひご活用ください。

『The Japan Times Alpha』編集長による 講演会を開催しました

『The Japan Times Alpha』、『The Japan Times Alpha J』の編集長を務める高橋敏之氏による講演会「挫折せずに習慣化できる確実に英語が身につく効果的学習法」を開催しました。講演では日本人の英語学習の問題点として「圧倒的な練習量の不足」が指摘され、そのことを証明するかのように、週刊英語学習紙の編集長として高い英語力を有する高橋氏の英語漬けの日常が紹介されました。そのあまりのストイックさに会場から



The Oxford English Dictionary のExecutive Editor Danica Salazar氏による講演会を開催しました

最初の包括的な英語辞書であり、現在も最も権威あるThe Oxford English Dictionary (オックスフォード英語辞典)のExecutive Editor(編集主幹)を務めるDanica Salazar氏による講演会“Words



of Japanese origin in the Oxford English Dictionary”を開催しました。オックスフォード英語辞典にはWorld Englishes(英国以外の国々にルーツをもつ言葉)が多数収録されており、その中には日本に関連する言葉も900以上含まれているそうです。講演はすべて英語で行われましたが、“umeboshi”や“origami”等の日本人にとって馴染みのある言葉が多く紹介されたり、出版社の辞書編集部を舞台とするベストセラー小説『舟を編む』(三浦しをん著)が愛読書として挙げられる等、分かりやすく親しみやすい講演内容であったことから、会場は終始和やかでリラックスした雰囲気に包まれていました。



図書館でご希望の本や雑誌記事・学術論文が見つからないときは、ぜひ下記①・②のサービス(※学内向け)をご利用ください。



① 他館からの文献取り寄せ(ILL)について

■雑誌記事・学術論文を読みたい場合

本学附属図書館に所蔵されていない学術雑誌等の記事や論文が読みたい場合は、他館から該当ページのコピーを取り寄せることが可能です。

注意事項(参照:右のQRコード)をご確認のうえ、お申し込みください。



■図書を読みたい場合

本学附属図書館に所蔵されていない図書が読みたい場合は、他館から一定期間取り寄せることが可能です。

注意事項(参照:右のQRコード)をご確認のうえ、お申し込みください。



■文献取り寄せ(ILL)サービスの利用方法について

サービスの利用方法については、右のQRコードをご参照ください。



② 購入リクエストについて

本学学生の皆さんは、本学附属図書館に所蔵されていない図書について、購入リクエストを行うことが可能です。購入の可否については、月に1回開催される「図書館部門会議」にて審議のうえ決定されます。

サービスの利用方法については、右のQRコードをご参照ください。



「購入リクエスト」は、会議での審議後に書店に注文を行うため、図書館にて利用可能となるまで1ヶ月~1ヶ月半程時間を要します。

文献取り寄せ(ILL)サービスでは、1週間から10日程で利用可能となりますので、お急ぎの場合は、ILLサービスをご利用ください。



教員著作コーナーより



今年度も、本学の先生方が執筆や編集等にたずさわった図書や雑誌をご寄贈いただきました。皆さんもぜひ手に取ってみてください。

太田雅規 教授

人生100年時代のヘルスプロモーションのすすめ

池田正春(監修), 池田正春, 太田雅規, 他(編著)
I9784870358027 梓書院 2024年5月

河原梓水 准教授

SMの思想史: 戦後日本における
支配と暴力をめぐる夢と欲望

河原梓水
ISBN 9784787210586 青弓社 2024年5月

木村貴 教授

ダークツーリズムを超えて: 北海道と九州を結ぶ
(ブックレット・ボーダーズ, No.11)

山田良介(編著)
ISBN 9784832969001 国境地域研究センター 2024年11月

木村貴 教授

はじめて向きあう韓国

浅羽祐樹(編)
ISBN 9784589043580 法律文化社 2024年10月

近藤洋平 准教授

中東を読み解く: 東大駒場連続セミナー:
思想・文化・信仰の遺産

高橋英海, 鈴木啓之, 宇田川彩(編)
ISBN 9784130302135 東京大学出版会 2024年9月

坂口周 准教授

「世界」文学論序説 ー日本近現代の文学的変容ー

坂口周
ISBN 9784879844606 松籟社 2025年1月

品川啓介 教授

ビジネスデザインと経営学

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科(編)
ISBN 9784794424907 創成社 2016年11月

深町朋子 教授

サブテキスト国際法: 教科書の一步先へ

森肇志, 岩月直樹(編)
ISBN 9784535524729 日本評論社 2020年3月

深町朋子 教授

プラクティス国際法講義【第4版】

柳原正治, 森川幸一, 兼原敦子(編)
ISBN 9784797225624 信山社出版 2022年12月

深町朋子 教授

近代国際秩序形成と法:
普遍化と地域化のはざまで

明石欽司, 韓相照(編)
ISBN 9784766428988 慶應義塾大学出版会 2023年6月

和栗百恵 准教授

リーダーシップはみんなのもの:
フェミニズムから考える女性とリーダーシップ

ジュリー・E.オーウェン(著), 和栗百恵, 泉谷道子, 河井亨(訳)
ISBN 9784779518218 ナカニシヤ出版 2024年10月

渡邊俊 准教授

御成敗式目ハンドブック

神野潔, 佐藤雄基(編)
ISBN 9784642084475 吉川弘文館 2024年3月

学生委員の 活動紹介

本学附属図書館は、2019年度より「図書館部門」と「美術館部門」の二部門体制になっています。それぞれの部門の運営に学生委員(※)が参画し、図書館や美術館を本学学生や教職員、地域の皆様にとってより魅力あふれる場所に変えるべく、様々な活動を行っています。

図書館部門の活動紹介

今年度は4名の学生委員が図書館運営に参画し、月に1回開催される「図書館部門会議」に参加したり、イベントの企画・運営を行ったりする等、様々な活動を行いました。今回は、学生委員の皆さんが関わった企画についてご紹介します。

▶企画展示「映画原作×厳選フレーズ ～新たな冒険へとあなたを導く物語～」を開催しました

昨年12月より図書館1階にて、学生委員による企画展示「映画原作×厳選フレーズ ～新たな冒険へとあなたを導く物語～」(※)を開催しています。読書に対して苦手意識をもっている学生へ本を読むきっかけを与えたいとの思いで発案された本企画展示では、書籍の展示と併せ、書籍の中から抜粋した台詞やフレーズが、個性的なデザインで掲示されています。皆様ぜひ一度ご覧ください。(※)企画展示の様子は、p.3「企画展示」でも紹介しています。



学生委員からのコメント

今回の企画は、普段本を読まない人にも本の魅力を知ってほしいとの思いから発案した。抜粋したセリフを実際に紙に拡大して展示するのに何度も試行錯誤したことが大変だったが、最終的に形にできた時はやりがいを感じた。また、いろいろな方のご協力のもと企画展示を完成できたことにとても感謝している。今回の反省点は計画的にできていなかったことである。そのため、また自分が企画する機会があれば、今回の反省を意識して行動に移したい。

(国際教養学科1年 菅 藍子さん)



学生委員からのコメント

今年私は「映画原作×厳選フレーズ」という企画を行った。発案してから本をピックアップするまでは簡単だったが、企画展示という形にする過程がとても難しく感じた。展示のイメージがまとまらず時間がかかってしまったが、実際に並べてみると想像がしやすくなり、結果的にとても良い企画コーナーが出来たと感じた。展示が完成した時も嬉しかったが、企画コーナーから本が借りられているのを見た時が一番嬉しく、達成感を感じた。

(国際教養学科1年 室園 雪衣さん)

▶「ブックサロン」を開催しました

今年1月に、図書館1階 ラーニング・コモンズにて「ブックサロン」と題するイベントを開催しました。おすすめの本を持ち寄り、本について自由に語り合うことのできる本イベントは、和気あいあいとした雰囲気の中、終始話の絶えない賑やかな会となりました。本についての話が尽きず、1時間の予定が急遽1時間半に延長される等、初の試みにも関わらず、大変な盛り上がりを見せました。イベントで紹介された本を、図書館1階ゲートそばに展示していますので、ぜひ一度ご覧ください。



学生委員からのコメント

本の魅力についてざくばらんに語り合える場が欲しいと思い、「ブックサロン」を企画した。準備の過程では、迷うことも多く、不安もあったが、当日は思った以上に参加者が集まり、終始楽しい雰囲気になった。参加者の皆さんから、「帰ったら本を読みたくなった」「読みたい本が増えた」という声を頂いて嬉しかった。今後も、多くの人に読書を楽しんでほしいと思っている。運営に協力してくださった全ての方に感謝している。

(国際教養学科2年 櫻木 花穂さん)



▶「ZINEを作ろうワークショップ」を開催しました

今年1月に、図書館1階 ラーニング・コモンズにて「ZINEを作ろうワークショップ」と題するイベントを開催しました。「ZINE」(個人やグループで、多様なテーマや手法を用いて自由に制作した冊子や出版物等)の魅力を広めたいとの思いで発案された本イベントでは、企画した学生委員よりZINEの作り方について簡単な説明を受けた後、参加者それぞれが思い思いのテーマでZINEを制作しました。参加者の制作したZINEの一部が図書館1階ゲートそばに展示されていますので、ぜひ一度ご覧ください。



学生委員からのコメント

3年目の委員活動では、念願だったZINEワークショップを開催した。雑誌が好きという思いと、作る楽しさや表現することの気軽さを知ってほしいという思いから開催した。ZINEの自由度、制限のある時間や材料の中でどう伝えるかに苦戦したが、企画は好評で、非常に嬉しかった。また、今年はそれぞれが企画を持ち寄ったため、コミュニケーションを取り互いの考えを理解すること、それをすり合わせていくことの難しさを実感した。

(国際教養学科3年 塚本 日向子さん)



(※)「学生委員」とは？

本学の「学生委員」に選ばれた学生は、本学教職員で構成される学内の委員会等に参画することにより、組織運営やリーダーシップなど、社会で求められる実践的な知識を学んでいます。

美術館部門の活動紹介

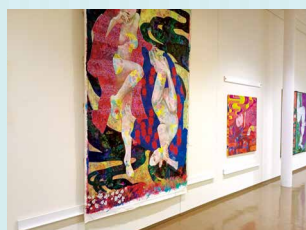
今年度は7名の学生委員が美術館部門の活動に参画し、本学美術館にて企画展を行ったアーティストへのインタビューを実施したり、かすみ祭にてワークショップを開催する等、様々な活動を行いました。今回は学生委員の皆さんが関わった企画等についてご紹介します。

▶ アーティスト・東智恵氏にインタビューを行いました

2024年4～6月に本学美術館にて開催された春の企画展「東智恵」にて、アーティストへのインタビューを行いました。作品のモチーフについて、またイギリスの大学院でファインアートを学んだ経験や大分・別府でのアーティスト活動等について、ざっくばらんに話して下さった東氏の言葉に、インタビューに参加した学生委員一同は大きな感銘を受けた様子でした。インタビューの内容は、美術館ホームページ「学生委員活動」のページに掲載されていますので、ぜひご一読ください。

学生委員からのコメント

私は今年度、主に春の企画展である東智恵展とかすみ祭でのワークショップ出店に取り組んだ。東さんは別府で1ヶ月住んでいたときに出来た友人だった。東さんは絵に真摯に取り組んでいたあまり、自分の絵を売り出すことや大きいところでの展示といった制作以外のことをほとんど考えていなかったそう。そんなアーティストに輝く場所を提供したいという思いで春の展示を企画した。みんなに楽しんでもらえて嬉しかった。(環境科学科3年 池上 麒麟さん)



▶ かすみ祭にてワークショップを開催しました

2024年10月に開催されたかすみ祭にて、「たらしこみアート」(キャンバスに絵の具をたらし込んで、さまざまな模様を作り出すアート)のワークショップと東智恵氏作品のポストカード販売を行いました。ポストカードを完売に近く売り上げた他、ワークショップは、事前に予約を受けていた参加者だけでなく、当日参加の方も多く訪れ、盛会となりました。

学生委員からのコメント

今年度より美術館部門の学生委員として活動を始めた。活動当初はすべきことがわからず、先輩方や職員の方々の指示を受けて、行動に移していた。しかし、学祭での出店をきっかけに小さなことからではあるが、自ら進んで物事に取り組めるようになり、自分自身が美術館部門の学生委員であるという自覚を持てるようになった。人との関わり方やチーム内での自分の立ち位置などを見つめ直すきっかけが多かった委員会活動であった。(国際教養学科2年 渡邊 璃乃さん)



学生委員からのコメント

美術館学生委員としての活動が3年目を迎えた今年度、初めて学祭への出店を計画した。これまでに前例のない試みであったため、ワークショップの内容や販売物の選定について、委員同士で何度も話し合いを重ねて準備を進めた。学祭当日は、県外からの来場者や小さな子どもにも楽しんでもらうことができ、大きな達成感を得た。(国際教養学科3年 広松 咲紀さん)

▶ 「エッグデコパージュ展」のフライヤー作成、関連イベントの運営を行いました

2025年1～3月の期間、本学美術館にて学生委員企画「アトリエ プチ*ミュゼ エッグデコパージュ展 『祝福』～祝福を、今ここで。～」(※)を開催しました。また関連企画として、アトリエ プチ*ミュゼより講師を招き、講義棟にてワークショップ「ウズラの卵でキーホルダーを作ろう!」を開催しました。

学生委員は、企画展や関連ワークショップのポスター作成を担当した他、ワークショップの運営にも携わりました。また講師の方のご厚意により、アトリエ見学を行った他、アトリエでのワークショップにも参加しました。

(※) 本企画の様子は、p.3「企画展示」でも紹介しています。

学生委員からのコメント

今年度の企画は数が多く、学生委員の人数も増えた状態で企画を進行することが大変だった。特に学祭でのワークショップは意見のすれ違いが起こったり予定が合わなかったりと困難が多かった。しかし、最終的には全ての企画を成功させることができ、学生委員内での団結力も高まった。また、学年の異なるチームで挑むことで皆の考え方がより多様になった。そのため企画にも色が出てより面白みが増えたことにやりがいを感じた。(国際教養学科3年 大河内 凜さん)





共に10周年を祝い、未来へと想いをつなぐLanguage Cafe

ラーニング・commons コーディネーター 金光 真美

本年度も、英語・中国語・韓国語・独語・仏語・スペイン語・日本語の7カ
フェが活動しました。“ランチタイムにお弁当を持ち寄り、リーダーを含むサ
ポーターを中心とした学生が主導し、語学学習や文化交流をする”というこ
の活動も、10年の継続を果たしたわけですが、今年も、留学や卒業が近づ
くと引継ぎを意識して後輩に運営を任せてみるリーダー、集客がうまくいか
ない時はイベントに工夫を加え、先生にもお願いして広報に力を入れるリー
ダーなど、たくさんの成長を目にすることができました。

また、昨年度末に試験的にスタートした会話特化型カフェ(英・中・韓)も
2ヶ月に一度ほどのペースで開くことができ、参加者たちは濃厚な時間を過
ごしました。

カフェ活動の修了式では、支援担当者として、学生本人たちにも伝えたこ
とですが、カフェはサポーターに恵まれていると実感することが多くあります。
サポーター登録自体は自由なので、選抜をしているわけでもないのですが、
活動の中で自然に、主体性のもち方や、マナー・思いやりなどが、先輩から
後輩へと受け継がれていく伝統が育まれていると感じます。

2Qに開いたオリジナリティ溢れるオリンピックゲームイベントや、久々にカ
フェ内外の多くの学生が集ったハロウィンパーティー、メンバーの距離がぐっ

と近づいてから開けたホリデーシーズンイベントなどでは、コロナ禍から復
活した勢いを感じることができましたが、中でも最大のイベントは11月10日
の10周年記念行事でした。

募集に応じて集まった運営メンバーが、各学年の在籍者だったおかげ
で、それぞれの視点からのユニークなアイデアを融合しながら企画を進める
こととなりました。最初に着手したイベントタイトルもそういった産物の一つ
で、相談の末、alumni(同窓生)と言葉(の花)を紡ぐ/繋いでいく気持ちを
併せて「はなむない」～言葉の花を咲かせよう～というものになりました。

オンラインと対面のハイブリッドで展開し、国内外の歴代卒業生と在学
生、教職員を繋いだ8時間に及ぶイベントを通して、これまで支えてきた多く
の方々の気持ちが集結し、今後につながるエネルギーを得られたことはと
ても大きな収穫でした。

Language Cafeは、講義でも、クラブ活動でも、華やかな活動でもないが
故に、卒業後には、ともすると忘れてしまう存在であっても、より根底のところ
でメンバーにとっての“何か”大切なものを形成する、そんな一端を担える地
道な活動拠点で有り続けることを、支援役の職員としても祈念するところで
す。



10/31 ハロウィンパーティー



11/10 カフェ10周年イベント「はなむない」より乾杯シーン



カフェ10周年イベント「はなむない」記念品とパンフレット

附属図書館の1年 ～2024年度に図書館・美術館にて実施した取り組みを紹介します～

- | | |
|--|---|
| <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の平日の開館時間が夜8時までに変更される(以前は夜9時まで)。 ・美術館にて、春の企画展「東智恵」展がスタート。 ・研究棟1F 多目的演習スペースにて、「Language Cafe」の新歓イベントを開催。 ・ファースト・イヤー・ゼミの環境として、新入生を対象とする図書館ツアーを複数回開催。 <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Language Cafe」の各カフェの活動がスタート(対面開催)。また活動の一環として「会話特化型カフェ」(英語・韓国語・中国語)の活動がスタート。 ・図書館1F ラーニング・commonsにて、「生涯学習カレッジ開講式」を開催。 ・図書館1F BBCコーナーそばにて、企画展示「図書館へ行くこう！～これからの大学生活をサポートする本を紹介します～」がスタート。 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館1F ラーニング・commonsにて、十四代今泉今右衛門氏によるご講話および感謝状贈呈式を開催。 ・第1回 オンライン図書館ガイダンスを開催。 ・ラーニング・commons企画 第1回、第2回「TOEIC講座」を開催。 ・「Language Cafe」の活動の一環として「日本語カフェ」の活動がスタート。 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究棟1F 多目的演習スペースにて、Language Cafe企画「オリンピックゲームイベント」を開催。 ・ラーニング・commons企画 第3回「TOEIC講座」を開催。 ・美術館部門学生委員の有志による「福岡アジア美術館」の見学。 <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスにて、1,000名を超える参加者に図書館をご見学いただく。また図書館1F ラーニング・commonsにて、模擬Language Cafeを複数回開催。 ・キャンパス見学&相談会にて、300名程の参加者に図書館をご見学いただく。 <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回 オンライン図書館ガイダンスを開催。 ・図書館1F ラーニング・commonsにて、国際フードスタディセンター主催の講演会を開催。 ・図書館1F ラーニング・commonsにて、女性リーダーシップセンター主催「お仕事紹介講座(JAL客室乗務員が大学にやってくる!)」を開催。 ・講義棟にて、Language Cafe企画「海の未来を考えよう!～対馬体験学習を通して～」を開催。 ・芝生広場にて、「Language Cafe」の活動の一環としてHalloween Partyを開催。 ・かすみ祭にて、美術館部門学生委員による企画「たらしこみアート」に関するワークショップと東智恵氏作品のポストカード販売。 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館1F ラーニング・commonsにて、女性リーダーシップセンター主催の「女性トッピーリーダー育成研修」(3日間の研修の一部)を開催。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館棟1階 カフェスペースにて、Language Cafe10周年を記念するイベント「FWU Language Cafe ALUMNI Gathering:10th Anniversary「はなむない」～言葉の花を咲かせよう～」を開催(Zoomを用いたハイブリッド開催)。 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学生・図書館懇談会」をオンライン開催。 ・図書館1F 円型書架そばにて、図書館部門学生委員による企画展示「映画原作×厳選フレーズ～新たな冒険へとあなたを導く物語～」がスタート。 ・図書館1F BBCコーナーそばにて、企画展示「手作りの言葉、伝わる想い。ZINEの世界」がスタート。 ・図書館1F BBCコーナーにて、ラーニング・commons企画「図書館に行こう!ホリデーシーズンイベント」を開催。 ・図書館蔵書点検を一部実施。 ・図書館1F ラーニング・commonsにて、「The Japan Times Alpha」編集長の高橋敏之氏による講演会を開催。 ・図書館1F ラーニング・commonsにて、OED(オックスフォード英語辞典) Executive EditorのDanica Salazar氏による講演会を開催。 ・研究棟1F 多目的演習スペースにて、「Language Cafe」の活動の一環として、学生企画のクリスマスイベント「HAPPY HOLIDAYS event」を開催。 <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県人権研究所・本学女性リーダーシップセンター共催講演会の参加者・関係者に「森崎和江文庫」をご見学いただく。 ・図書館1F ラーニング・commonsにて、図書館部門学生委員企画「ブックサロン」を開催。 ・図書館1F ラーニング・commonsにて、図書館部門学生委員企画「ZINEを作ろうワークショップ」を開催。 ・図書館1F BBCコーナーにて、ラーニング・commons企画「BBCリスニングリレー」を開催。 ・美術館部門学生委員企画「アトリエ プチ・ミューズ エッグデコパージュ展「祝福」～祝福を、今こころで。～」がスタート。 ・図書館1F 円型書架にて、企画展示「卵の不思議・鳥の秘密」(「エッグデコパージュ展」関連企画)がスタート。 ・研究棟1F 多目的演習スペースにて、「Language Cafe」の修了式を開催。 ・講義棟にて、「エッグデコパージュ展」関連企画としてワークショップ「ウズラの卵でキーホルダーを作ろう!」を開催。 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館内、研究室等の蔵書点検を実施。 ・ラーニング・commons企画 第1回、第2回、第3回「TOEIC講座 II」を開催。 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義棟にて、「エッグデコパージュ展」関連企画としてワークショップ「ウズラの卵でキーホルダーを作ろう!」を開催。 |
|--|---|



公立大学法人
福岡女子大学
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

福岡女子大学附属図書館ニュース

編集発行：福岡女子大学附属図書館

福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号

TEL&FAX：092-661-2416 ホームページ：http://www.fwu.ac.jp/lib/